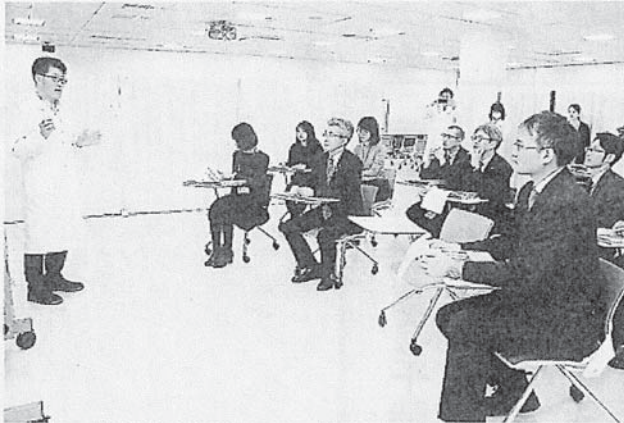


口の健康意識 半年で変化は

弘大・新たな健診の効果検証 歯みがき行動改善も

弘前

唾液検査システムなどを活用して簡単に口の健康をチェックし、意識改革を促す新たな歯科口腔健診の開発・展開を目指す弘前大学などの実証事業が進んでいる。今月は半年前に検査を受けた弘前市職員約80人を対象に、効果を検証する2回目の検査がスタート。16日は桜田宏市長も参加した。弘大によると、この半年で、1日に歯を磨く回数が増えるなどの行動の変化がみられたという。(太田佳希)



和田助教(左)から健診のフィードバックを受ける参加者たち

弘大を拠点とする国の大型研究プロジェクト「弘前大学COI」は、健康診断の結果をその場で受診者に示し、結果を基に健康教育を行う「啓発型健診」に取り組んでいる。口腔健診も健診項目の一つ。ライオン(東京)が開発した唾液検査システムと質問票などを組み合わせることで、虫歯のリスクや歯茎の健康状態などをチェックする。2回目の検査は15日から4日間、弘大健康未来イノベーションセンターで行う。16日は参加者が口臭検査や唾液採取などに臨み、それぞれの検査結果を手に、歯科衛生士らから食事の取り方やセルフケアの方法といったアドバイスを受けていた。質問票による事前調査の



結果も示された。昨年7月の初回検査時と比べ、1日に歯を磨く回数が1回という人が減少する一方、3回以上とする人が増加。また、デンタルフロスや歯間ブラシを使う人の割合が1割から2割上昇した。時間をかけて丁寧な磨き方をする人も増えたという。

自分に合った歯ブラシを選ぶためのアドバイスも行われた

説明に立った弘大医学研究科ヘルスケア

に歯を磨く回数が1回という人が減少する一方、3回以上とする人が増加。また、デンタルフロスや歯間ブラシを使う人の割合が1割から2割上昇した。時間をかけて丁寧な磨き方をする人も増えたという。説明に立った弘大医学研究科ヘルスケア

同社会医学講座の中路重之特任教授は「この実証事業で、いいデータが集まっている。新しい歯科スクリーニング(含み分け検査)法として、期待が持てる」と語った。

桜田市長も、検査をきっかけに正しいブラッシングを意識したという。「口の健康は全身の健康に関わるので、多くの人に実践してもらいたい。まず市職員が率先して昼の歯みがきを行うようにしたい」と述べた。